

うちの近所 コレイチ

わが町 自慢紹介 26



昭和初期 東大阪に
「映画の都」があった

「東洋のハリウッド」 威容を誇った撮影所

1928（昭和3）年から約2年間、東大阪市菱屋に映画撮影所がありました。敷地約3万平方メートル、高さ13メートルの巨大なドーム型撮影所。トーキー（有声）の設備も整えた近代的な撮影所は、「東洋のハリウッド（ハリウッド）」と呼ばれたと言います。

当時、撮影所を運営した「帝国キネマ演芸」は、日活や松竹などと並んで映画界を代表しており、同市内の「小阪撮影所」が手狭となったため「長瀬」に移りました。1929



帝国キネマは「帝キネ」の愛称で親しまれ、長瀬撮影所では「何が彼女をそうさせたか」などの名作がうまれました

年の雑誌には移転先に選んだ説明があり、「生駒連峰が、なだらかな曲線を東北に張っている。小松が白い地面を美しく抜き模様にする：」と書かれ、奈良や京都・大阪に近かったためと言われています。

惜しくも火災で焼失 跡地には文化財の建物が

大阪朝日新聞によれば、1930（昭和5）年9月30日に撮影所は火災で全焼。再建はされず、京都・太秦に移転しました。跡地は宅地化が進み、現在の松蔭学園の創立者森平蔵氏の私邸が登録有形文化財「樟徳館」として残っています。建物の前を桜並木に縁取られた長瀬川が流れ、ここだけゆったりとした時が流れているようでした。



跡地にたつ「樟徳館」。周辺は散策コースとしてもおすすめです

Culture Navi かるちなーび

何があっても「仲間がいっしょ」だから

支援を訴えて勇気をもらう

家族や仲間を支えられ一生懸命働いたのに…「出さんかったら退職金ももらわれへんの?」。でも、身近に仲間がいて、「一人じゃないんだ!」と励まされ、提出しない決意をしました。それでも、不安はつきまといました。そんな時、仲間と裁判でたちあがることとなり「何があっても仲間がいっしょ」と、ちょっと心強く思えました。今も再任用で働いています。時々不安になりますが、支援を訴えることで勇気をもらっています。これからもご支援をよろしく願います。

市長のサインに「恐怖」を感じた

「思想調査アンケート」がだされたのは、あと1年とすこしで定年退職という時でした。永年、こどもと保護者の気持ちに寄り添い、保育に取り組んできました。しかし、橋下市長は「職員には民意を語ることは許しません」と、職員をビリビリさせました。「このアンケートは任意の調査ではありません。市長の業務命令…。正確な回答がなされない場合には処分の対象…」と直々のサイン入りの手紙。「えっ、処分…。驚いたというか、恐怖を感じました。」



「スタンダップ」はシンガーソングライターのかわさきゆたかさんが作曲した「思想調査アンケート裁判」の応援歌です。

「思想調査アンケート」裁判
原告59人の決意
スタンダップ
No.15 橋本 悦子さん

1616 ニュースマガが えいがか

剣を包丁に変えて 加賀藩の台所を支えた武家がいた

2010年に公開された「武士の家計簿」に続き、江戸時代の加賀藩に仕えた調理担当の武士をユニークな切り口で描く時代劇です。「料理無言抄」という当時の藩内レシピ集を書き残した実在の侍である舟木伝内と安信親子とその家族を描いています。

若手藩士らによる改革の動きが、舟木家を巻き込んでいきます。同時に、藩主の国許入りを祝って近隣の大名を集めて饗応料理を振舞うことになり、舟木親子がその大舞台で采配を任せられます。

加賀藩の料理台所を任せられる部署が舟木家の仕事。「包丁侍」といわれるのが嫌で武術に精をだしていた舟木安信でしたが、家督を引き継ぐべき兄の急死で、自分が次羽目に。そこに嫁いできたのが藩主の側室の女中だった春。安信の父が春の料理の腕前にはれ込んだことでした。おかげで安信の料理の腕前も徐々にあがります。その一方で、藩の

舟木家の最大の危機に春のたった行動は。饗応料理の大舞台はうまく事が運ぶのでしょうか。脚本は「武士の家計簿」も手がけた柏田道夫。監督は山田洋次の愛弟子で「釣りバカ日誌」シリーズを手がけてきた朝原雄三。主人公の舟木伝内と安信親子に西田敏行と高良健吾、安信を支える妻役の上戸彩が明るく元気で可愛いキャラクターで好評です。上映時間は121分。



(映画の宣伝チラシから)

武士の献立

流行に見向きもせずキーツやメルヴィルを読み、ウディ・ガスリーやロバート・ジョンソンを聞いた方がいい
ボブ・ディラン（ミュージシャン）

3月に4年ぶりの来日公演が決定した「生ける伝説」ボブ・ディラン。この言葉は彼が若手のミュージシャンたちに向けたものです。流行に惑わされずに歴史を知り、自分の価値観を確立することの大事さは私たちに当てはまる気がします。

心に響くひとこと

勇断なき人は事を為す能わず
島津 齊彬（薩摩藩第11代藩主）

緻密な計算と勇断があって仕事は完遂できるのです。決断を下せない人は物事を達成することができません。決断を下すことは時として非常な勇気を伴うものです。しかし、その勇気がなければ物事は前進しません。では、とにかく何でもいから決断すればよいかというと、そうではないです。綿密な調査や裏付け、結果の予測などがあって初めて決断が可能になります。根拠のない決断は、勇断ではなく無謀といえます。